

平成24年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	鳥栖市立田代小学校		
2 所在地	鳥栖市田代上町301番地1		
3 校長名	柴田 昌範		
4 学級数 児童生徒数	16学級 326人	5 実施学年 児童生徒数	4年 62人

6 取組のねらい

中原特別支援学校鳥栖田代分校の児童・生徒や高齢者との触れ合いを通して、分校の友だちや高齢者の方のために自分たちにできることや、今後の交流について考えさせ、心のバリアフリーを図る。

7 取組の実際

(1) 分校児童・生徒との交流スペースの設置

今年度の田代小の運動会には、分校児童生徒が、徒競走・準徒歩などと一緒に参加し、田代小の児童が分校の友だちを身近な存在として感じ取る機会となった。この活動を受け、4年生の総合的な学習「田代小を明るくするプロジェクト」で、児童は、「田代小の人たちだけでなく、分校の人たちも一緒にほっとできる明るい場所を創ってはどうか」と発案した。その活動の一つとして、校内の誰もが集える場所である北校舎1階の中央フロアに、椅子や机を置き、そこに、花や生き物も置いて、ほっとしてくつろげる場所を創ることにした。その場所に、分校や田代小からのお知らせなどを紹介する「交流掲示板」も設置し、互いの情報交換の場となるように工夫も加え、心の交流につながるようにした。



北校舎1階に設置されたほっとスペース



分校と田代小の交流を図る掲示板

(2) 高齢者の方との交流体験

11月2日(金)に田代本町の「ケアハウスコスモスの園」を訪問して行った



ミニコンサートでの合唱

高齢者との交流では、施設の都合により、2つの場所に分かれて交流を実施した。1組は、長期入院をされている高齢者の方との交流、2組はデイサービスを利用されている高齢者の方との交流を行った。

まず、ミニコンサートでは、音楽の時間に取り組んだりコーダーを演奏したり、高齢者の方が口ずさむことができるような童謡などを合唱したりした。ここでは、児童が司会進行をし、曲の説明や紹介なども行った。

その後、インタビューを実施した。ペアで高齢者の方に子どもときの遊びや生活について尋ねた。自分の今の生活との違いに驚いたり、高齢者の方に励まされたりして感動している児童もいた。インタビューをする時の態度にも変化が見られた。最初は、ちょっと離れた感じで聞いていた児童が、高齢者の方の話を聞こうと身を乗り出し、笑顔で自然



高齢者の方々

に交流ができていた。介護者の方も補助に入られていたが、耳の遠い方には、耳元で聞こえるように話す姿も見られ、子どもたちの変化に感動しておられた。その空間が温かな光に包まれているような光景に見え、先人の苦勞と努力を知る機会にもなった。



インタビューの最初の頃

時間が経つにつれ、施設の生活の様子や健康面にまで話題が広がり、高齢者の方との心の交流が

深まった。

交流の最後には、「ふるさと」を高齢者の方の間に入って合唱し、会を閉じることとなった。

交流後、児童の発案で、図工で制作するクリスマスカードを送ろうということになり、クラスの代表が施設の方に届ける活動につながった。残念ながらノロウィルスが流行していたので、健康面を考慮し、直接手渡すことができなかった。もし、全員で訪問し手渡すことができたなら、共に心に残る活動となったと思われる。



インタビューの様子1

8 取組の成果と課題

【成果について】

- (1) 誰もが集える場所を児童の視点で創り出す活動を通して、分校の友だちを意識した活動や空間のあり方を考える機会となった。これを契機として、休み時間にも交流する姿が見られるようになった。
- (2) 高齢者との交流では、苦しい社会環境を乗り越え、今の日本の土台を築かれた高齢者の方の苦勞と努力を知ることができ、



インタビューの様子 2

高齢者の方を尊敬する心を育むことにつながった。

ミニコンサートも、ただ演奏するのではなく、児童が中心となって進めることで、高齢者の方に自分たちの思いが詰まった曲をどのように伝えればよいのか考えるきっかけとなった。さらに、よりよい合唱や演奏をしようとする集団の意識の高揚も見られた。交流を終えた後、図工で制作するクリスマスカードも高齢者の方に送ろうという考えが自然に生まれ、更なる交流につながった。

【課題について】

- (1) 4年生の活動をきっかけに、分校の友だちと交流する空間を、今後更に効果的に活用していくための全校的な取組を工夫し、学校ぐるみの交流につなげていきたい。
- (2) ミニコンサートの曲目について学級会などを開いてじっくりと児童に考えを出させるべきであった。学校行事等が重なり十分な準備ができなかったことが要因であるが、教師が計画性をもって事前から取り組む必要があった。

また、今回のようにノロウィルスやインフルエンザなどが流行した場合、健康面を配慮すると交流ができない場合がある。さらに、単年度のみ実施するのでは、高齢者の方の期待を裏切ることになる。今後は、学年の総合的な学習の時間等の単元計画の中に確実に位置づけ、計画的・継続的に交流を深めていく必要がある。